

高齢者歯科学分野 大学院特別講義

(医歯学先端研究特論) (生命理工医療科学先端研究特論)
(医歯理工学先端研究特論)

総義歯の咬合調整 訪問診療でも使える 知恵と技

講師 **古屋 純一** 先生

昭和医科大学

歯学部口腔健康管理学講座

口腔機能管理学部門 教授



日時：2026年2月16日(月) 17:30-19:00

場所：7号館3階 講義室4

外来診療では総義歯治療が減少傾向にあるとも言われますが、演者が日常的に行っている訪問診療の現場では、総義歯を必要とする患者さんは今なお多く存在しています。

さて、総義歯治療の成否は印象と咬合に左右されますが、演者は印象はそこそこ、咬合はしっかりと、というイメージをもって、特に咬合の重要性を重視しています。ひも状義歯などの形態の義歯でも、咬合が安定していれば義歯を痛みなく使用できる症例を経験するからです。

総義歯の咬合は、大きくわけると咬合採得、人工歯排列、咬合調整から成り立っていますが、訪問診療ではまず現義歯の安定が優先される場面も多いのが現状です。そこで本講義では、あえて咬合調整に焦点を当て、さまざまな制限のある訪問診療の現場においても実践可能な、総義歯の咬合調整に関する考え方と具体的な工夫について解説します。

担当：張君璋 c.cahng.gerd@tdm.ac.jp
高齢者歯科学分野 (内線5583)